

---

# 祝成功蘇生術

怖気忘郷

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

祝成功蘇生術

### 【Nコード】

N0186K

### 【作者名】

怖気忘郷

### 【あらすじ】

他の者がやっても努力が皆無になつた蘇生術。

何故か私には出来て、何故皆が出来ないかを考えた。

考えのヒントになるためにやり始めたこととは一体……？

主人公、桜芽雲雀（hibarisakurame）が蘇生術を成功させるまでを書いたお話。

## プロローグ（前書き）

1000?フィクションです。絶対に試さないでください。  
作者は極度の莫迦（馬鹿）です。材料（？）とか絶対間違っていると思います

## プロローグ

かつて不可能とされた蘇生術。  
皆やったが皆無であった。

ところが、それが出来る者がいた。

それは、私

何故私には出来たのか

何故私以外は無理なのか

考えなければいけない気がする。

努力が皆無だった人のために。

何故神は皆に微笑んでくれなかったのか

何故神は私に笑っていたのか

蘇生術に至るまで、私が人間を卒業したときにまで遡る。

あれは私が始めて魔法を使ったときのこと。

まだ何も分からなくて、魔法の才能がなかったときのこと。

祝成功蘇生術

## 人間時の最大の悩み

私は生まれつき魔力を持っていた。

でもあの時は使い道が分からなくて、人間と同じように、というか、人間だった、と言って良いのか。

紹介が遅れていた。

私の名は桜芽雲雀という。

母も父も人間だった。にも関わらず、何故か私だけ魔力を持っていた。

それが原因なのか、母と父は揃って私を捨てた。

私は大富豪の家に生まれた。

だから自分の貯金なら小さな屋敷くらい買える。だから、買った。

で、今は其処に暮らしているというわけ。

やがて、私の家に魔女と名乗る者がやってきた。魔女と名乗る者は言った。

「お前、魔力があるのにどうして使わぬ？」

私は魔女と名乗る者の質問に答えた。

「使い方が分からないから」

そして、また魔女は言った。

「ならば、お前、弟子にならないか？  
お前の魔力の使い方も分かるだろう？」

それにつられたのか、なると言った……。  
でも、あそこでなつて正解だった。

蘇生術との出会いがあったから。

## 魔女に弟子入り（前書き）

魔方陣の件ですが、絶対にSATORの魔方陣等は試さないでください！！

魔力が込められているそうなので！

使っても作者は一切責任を負いません。

何かありましたら各自で処理してください。無責任ですみません。

r z

一応効果は伏せておきます。念のためです。

## 魔女に弟子入り

私は最初はこういうことを知った。

### 土星の魔方陣

1	5	4	9	2
3	5	7		
8	1	6		

### 木星の魔方陣

3	4	4	1	4	1	5	1
9	7	6	1	2			
5	1	1	1	0	8		
1	6	2	3	1	3		

### 火星の魔方陣

6	5	1	1	2	4	7	2	0	3
4	1	2	2	5	8	1	6		
1	7	5	1	3	2	1	9		
1	0	1	8	1	4	2	2		
2	3	6	1	9	2	1	5		

### 太陽の魔方陣

1	1	1	6	3	2	3	4	3	5	1	
7	1	1	2	7	2	8	8	3	0		
1	9	1	4	1	6	1	5	2	3	2	4
1	8	2	0	2	2	2	1	1	7	1	3
2	5	2	9	1	0	9	2	6	1	2	
3	6	3	3	4	2	3	1				



	B	A	C	
				A
B	D	C	A	
A	C	D	B	
D	B	A	B	C
C	A	B	A	D
	C	B	A	
	A	C	B	

ラテン方陣

6	9	1	4	3	4	4	2
4	5	7	0	2	1	9	6
2	5	4	2	3	2	1	0
3	5	7	6	4	3	5	8
6	4	4	2	3	2	1	5
1	1	6	7	5	2	4	8
6	2	0	3	2	4	5	9
0	1	7	9	9	4	2	9
6	3	2	3	2	4	5	5
7	5	1	6	8	5	3	5
7	1	4	3	3	1	1	4
5	5	3	0	8	9	1	6
7	0	4	3	3	1	1	2
	1	2	1	9	8	0	6
	6	2	3	2	4	5	3
		4	3	5	8	6	1

水星の魔方陣

4	2	3	1	3	5	1
6	1	8	3	0	2	7
1	3	1	3	6	3	5
5	9	4	1	2	4	2
4	8	3	7	4	8	4
0	3	2	2	4	1	7
9	3	1	5	9	7	1
3	2	2	4	1	4	6
4	2	6	3	8	2	4
3	7	4	1	3	1	1
2	4	4	9	6	1	0
8	5	2	3	1	2	0
		0	7	2	9	3
						5
						4

金星の魔方陣

1	7	5	2	2	4	7	1
7	5	2	4	8	1	7	6
2	3	4	8	4	7	1	6
2	2	4	8	4	7	1	6
4	7	1	4	2	4	1	1
4	7	1	4	2	4	1	1
1	6	4	2	4	1	1	0
6	4	2	4	1	1	0	3
4	1	4	1	1	0	3	5
1	0	3	1	1	0	3	5
0	3	5	2	9	3	5	4

S A T O R の魔方阵

S A T O R  
A R E P O  
T E N E T  
O P E R A  
R O T A S

T R A P S の魔方阵

T R A P S  
R E L A P  
A L U L A  
P A L E R  
S P A R T

R O L O R の魔方阵

R O L O R  
O B U F O  
L U A U L  
O F U B O  
R O L O R

……全然分らない。

今ならこういうことも簡単だけでも。

「お前にはまだこの効果を知るのとは不可能であろう」

じゃあ見せるなよ……。

そして行く年月……

ついに蘇生術を使う時がくるのであった。

蘇生術使用の時（前書き）

前のラテン方陣、ずれてたみたいですね

すみませんorz

## 蘇生術使用の時

「水35?、炭素20?、  
アンモニア4?、石灰1.5?、  
リン800g、塩分250g  
硝石100g、硫黄80g  
フツ素7.5g、鉄5g  
ケイ素3g、人間一人分の元、  
血5滴、蘇生術用魔方陣……」

後は蘇生術用魔方陣を使って……

呪文を唱えるだけ……

「……………」

呪文を唱え終わったら生き返る人に対しての一言を言う……

「お願い！生き返って！！蘇生して！！」

辺りが光でまみれている。

光が消えて其処にあったのは……

あの人だった。

## 祝成功蘇生術

「……………ひ……………ぱり……………？」  
「……………！！」

やった！！

ついに成功した！！

他の者には不可能な蘇生術が！！

因みに生き返った人の名は沢木あいと言う人。  
ある理由があつて亡くなつた……………

「あい……………」

「雲雀……………！！」

私達は抱き合つた。

普通、蘇生術はとても難しいもので、  
誰も出来なかつた。

なのに、私だけが出来た……………

そんなことがあるだろうか……………

なんだか私は少し嫌な気分がした。

蘇生術をやつた皆の努力は皆無になつた気がした。

それでも成功した。

あいは戻ってきた。

あいは見られてはいけないと言うことで、  
今は私と同じ魔法使いの修行をしている。

だから……

もしかしたら、あの人が来るかも。

祝成功蘇生術（後書き）

…… 凄く短かったですね  
というか短すぎましたね

すみません。

あと少しだけ続きます。



## エピソード

それから何年も経ち……

私は一人で魔法使いとして生きている。

あいつも魔法使いとして生きている。

あの魔女にはあれ以来会ったことがない……

外へ出るとポストに手紙が入っていた。

手紙は2通あった。

1通はあいのもので、2通は……

あの魔女からであった。

手紙にはこう書いてあった。

あいの手紙は……

「雲雀へ

蘇生術でやったって？

師匠から聞いたよ、凄いねえ。

私の師匠は一度雲雀の師匠だって言っもんだから、

何故私がいるか聞いてみたんだよ。

本当に凄いね……

有難う

あい」

あの魔女からの手紙は……

「雲雀

お前はまだ生きておるか？  
生きておるなら読むが良い。

お前は数多くの者……

いや、皆に不可能だった蘇生術を成功させた。

お前は私を超えた。

今はお前が蘇生した奴の師をやっておる。

あの時私は見ていたぞ。

まさかお前が蘇生術を成功するとは思わなかった。

もうお前は私の弟子ではない。

蘇生成功だ

「元師」

私はどれだけ涙を流しただろうか。  
蘇生は成功した。

……ところで、何故皆は出来なかったのか。  
考えた末、こうなった。

皆には、愛がなかった。

愛があれば出来たことだった。

これで話は全部だ。次は何故あいが死んだかを話そう。

## エピソード（後書き）

短すぎました。

私ヲ壊しテく呪いのメールに続きます。

では！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0186k/>

---

祝成功蘇生術

2010年10月10日16時56分発行